

第9話 今では珍しい経由便で帰国の途に

1月31日の朝3時過ぎ、ホテルの部屋の電話がけたたましく鳴った。セットしておいたウェークアップ・コールだ。機械は文句も言わずに忠実に働いてくれるものだと妙な事に感心する。寝ぼけたまま身支度をしてチェックアウトをした。早いもので今日は日本に帰る日だ。利用する航空機は SIN 発 7時10分の Jetstar Asia で、台湾の台北経由関西空港行きの便だ。予約時に送られてくる案内には「予定出発時刻の遅くとも40分前までにチェックインされない場合はご搭乗頂けません。」と書いてある。どこの LCC も早目の行動が必須と自分に言い聞かせていた。万が一にも遅れると大変なので余裕をもって空港へ行くことと決めていた。

早起きのお陰で5時前には空港に到着してしまった。Jetstar Asia はメインターミナルの T-1 を使用している。(メインターミナルには T-1, T-2, T-3 の3つのビルが隣接している) 何時もの通り手続きカウンターの場所を掲示板で確認して向かうと、出発の2時間以上前だというのに既に手続きが開始されている。

Time	To	Flight	Row	Remarks
0400	Melbourne	JQ 8	13	Gate Closing
1300	Istanbul	TK 67	05	Re-timed
0510	Taipei	BR 6235		Re-timed
0545	Atlanta	DL 280	13	Boarding
0630	Manila	3K 561	03	
0640	Hong Kong	3K 691	02	
0710	Osaka	3K 521	03	Cancelled
0710	Taipei	3K 721	03	
0715	Bangkok	3K 511	03	
0715	Ho Chi Minh	3K 555	02	

31 Jan 2011, 04:51 You are in Terminal 1

Jetstar Asia の出発が重なっている … 7時10分発の Osaka 行きがキャンセルって何？

さすがに時間が早いためか3ヶ所ある窓口には誰もいないのですんなりと搭乗手続きを終了することができた。私は急ぎの旅ではない限り極力機体後方の席を求めるのだが、この便は予約の時点で既に後ろの席がうまっていたので、機体中央部通路側の14Dに座ることとした。そうだこの便は今時珍しい経由便。今預けた手荷物はちゃんと最終目的地の関西

空港までのタグが付いているのだろうか？ちょっと心配になったので窓口のスタッフに確認した。すると彼女は慌てた様子で荷物を流したベルトコンベアーを緊急停止してタグを見に行ってくれた。「大丈夫、関西までになっていますよ。」「OK、完璧だね、有難う」。これで早朝出勤の彼女も目が覚めたかな？などと思いながら次は座席番号、搭乗口と搭乗時刻の確認を搭乗券で確認した。あれッ、搭乗券は見慣れない青色のロゴが印刷された「Valuair」のものだ。Valuair はシンガポールを基点に 2 機の A320 を運航していた LCC であるが、2005 年に Jetstar Asia と合併した。その後も Valuair というブランド名だけは残しているが、Valuair の WEB サイトを見ても内容は Jetstar Asia になっているのが現状だ。搭乗券が Valuair の物を使っている差ほど不思議なことではない。



搭乗券は Valuair のものだった

早めに手続きが終わったので免税店でも冷やかそうと思い、そのまま中に入って期待していたこととは違った光景には少々落胆した。世界に冠たる 24 時間空港であるシンガポール・チャンギ空港とは言え、早朝時間帯は数店の化粧品店とコーヒーショップ以外はシャッターが閉まっている。結局ここでもコーヒー1杯で時間をつぶすことにした。

出発 1 時間前の 6 時過ぎに搭乗待合室がオープンした。SIN では旅客の保安検査をそれぞれの搭乗口で実施するようになっていて、搭乗券の改札(手で半券をもぎる)もこの時点で行ってしまうシステムだ。従って手続きを終えた旅客はガラス窓で仕切られた待合室で搭乗を待つことになる。

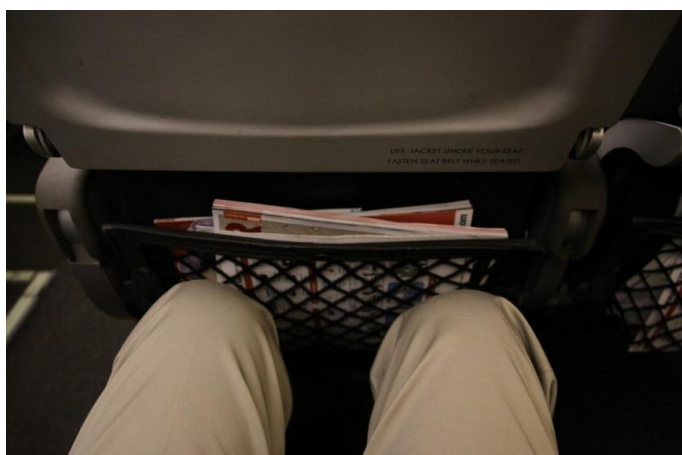


搭乗ゲートのオープンは 6 時 10 分だ

6時50分、いよいよ搭乗開始だ。まずは手伝いの必要な旅客、それから機体後部座席の人から分散して搭乗案内があった。機内の混雑を避けるために日本でも行われている搭乗方式であるが、搭乗案内のアナウンスは地上スタッフではなくCAが待合室で搭乗券の確認をしながら行っていた。

ボーディングブリッジ(搭乗橋)を通過してそのまま機内に入るのは久しぶり？な機分だ。CAの明るい挨拶で機内に入って、機体のほぼ中央部の14Dに座る。レザー貼りのシートの座り心地はとても気持ち良く、180席の装着席数にしてはヒザ前の空間も24cmほどあって狭さを感じない。多くのLCCが丈夫さと清掃の容易性からレザーシートを採用しているが、旅客にとってもメリットがあると思っている。それは乾燥しきった機内では布製よりもレザーの方が静電気が起きにくいということだ。座席幅も45cmはあってこれも窮屈さはなかった。この便もオーディオなどの機内エンターテイメントはないので、肘掛の内側にはリクライニングのボタンがあるだけのシンプルな構造だ。また、ヘッドレストカバーも他のLCC同様に装着されていない。座席ポケットには安全のしおり、機内販売カタログ、メニューと機内誌の4点が入っている。これまで利用した2社の物よりは汚損がない。

(続く)



写真で見ると足元は広い
十分足が組める



座席ポケットに入っているものは
4種類